

活動名	学生会館の建て替えに伴うサイン計画のデザインの提案 Proposal of the sign plan design of “Students Commons”
代表者氏名・所属	青木麻里子（生活科学部 人間・環境科学科 4年）
構成員氏名・所属	大畑洋子（生活科学部 人間・環境科学科 4年） 石井友里香（ライフサイエンス専攻 人間・環境科学コース 修士1年） 百瀬淳美（東京工業大学大学院 物理情報システム専攻 修士1年）

0. 概要

2016年2月に開館する新学生会館“Students Commons”内のサイン計画を本大学施設課・学生課に対し提案した。提案内容は①一部居室への愛称提案、②部屋名表示板の設計である。実際に愛称を記載した部屋名表示板を製作し、新学生会館にて使用されることとなった。

1. 背景

これまでの学生会館(以下、旧学生会館)は2015年6月に閉館し、2016年2月に“Students Commons”(以下、新学生会館)が開館する。旧学生会館はこれまで課外活動の場として広く学生・教職員に親しまれてきたが、利用時の問題の一つとして、部屋の位置がわかりにくいと指摘されていた。部屋名が通し番号(例:No.1)であることや部屋名表示の小ささ等が原因と考えられる。

本グループは、人間・環境科学科の学生および卒業生で構成される。人間・環境科学科では、建築環境計画論、建築設計製図演習などの授業で建築について学ぶ。これらを通じ、部屋の配置や外観などハード面の設計だけでなく、利用者に適切な行動を促す仕掛けが必要となることを学んできた。仕掛けの一例にサイン計画があり、適切なサイン計画は、設計者側の意図と利用者の行動の溝を埋める非常に有効な手段となる。

利用者の利便性を高め、親しみをさらに感じてもらえるよう、新学生会館にお茶大らしい新たなサイン計画を提供することが本プロジェクトの目的である。

2. プロジェクト実施内容

サインとは、建物内外の目印・表示・標識のことである。文字だけでなくピクトグラムなどを組み合わせた分かりやすい視記号であり、利用者の行動に必要な様々な情報を視覚的に伝える。(例：トイレマーク、非常口マークなど)

本プロジェクト実施の流れは以下の通りである。

基本計画：お茶大生100名にアンケートを行い、利用状況を調査。

実施設計：表示内容・配置を検討。複数のデザイン案を基に試作品を製作し実際の見え方を調査。

提案：施設課、学生・キャリア支援課に提案。何回か協議し最終案を決定。

製作：実際に使用されるサインを製作。

2-1. 利用状況調査結果

幅広い学科・学年の100名のお茶大生にアンケートを行った。「旧学生会館に対する不満点」と「親しみやすい施設の条件」に関して自由記述による回答を得た。結果、不満点としては「暗い・汚い・部屋の場所がわかりづらい」が、親しみやすい施設の条件としては「明るい・きれい・開放的・誰にでも使いやすい」が挙げられた。(それぞれ回答者数10名以上のものを抽出)

旧学生会館利用頻度と比較すると、高頻度利用者(毎週利用)は旧学生会館に対し「汚い」こと

を挙げる割合が高く、「綺麗で清潔な」施設を期待していた。低頻度利用者(月 1 回以下)は「暗く、入りにくい」印象が強く、「明るく開放的な」施設が望ましいとする傾向が高かった。

「部屋のわかりにくさ」については、館内の構造について熟知した超高頻度利用者(週 3 回以上利用)以外の利用者からの不満が多く、「わかりやすく、使いやすい」施設が幅広い利用者から望まれていることがわかった。

2-2. サイン計画提案内容

本プロジェクトでは、①誰にとってもわかりやすいこと、②統一感があり女子大らしく明るいデザインとすること、の2つを軸として設計を行った。施設課、学生・キャリア支援課への提案内容は、一部居室への愛称提案、部屋名表示板の設計の2点である。

2-2-1. 一部居室への愛称提案

マルチパーパス2室・スタジオ2室・アトリエ3室・和室に対し、以下のような愛称を提案した。

マルチパーパス1・2 → Oolong, Jasmine スタジオ1・2 → Rosemary, Chamomile
アトリエ1～3 → Gyokuro, Hojicha, Maccha 和室 → Nagomi

マルチパーパス、スタジオ、アトリエの愛称は世界のお茶名から考案し、和室にも周囲に合わせた可愛い愛称を提案した。愛称をつけることで部屋に親しみを持たせると同時に、“お茶”の水女子大学にちなむことで、利用者のお茶大への帰属意識を高める効果が期待される。

2-2-2. 部屋名表示板の設計

設計・製作した部屋名表示板は、マルチパーパス2室・スタジオ2室・アトリエ3室・和室・微音祭実行委員会室・事務室・作業室の計11室分である。20 cm四方の透明アクリル板に部屋名と愛称に合わせた柄の彫刻を施した。レーザーカッターを用いて大学内で加工した。

部屋名部分は、施設課や学生・キャリア支援課と協議し最終的なデザインを決定した(図1)。愛称と部屋名だけでなく、英語表記の部屋名も加え、留学生や海外から来た利用者にもわかりやすいものとした。背面には、暖色系で彩度の高いカッティングシートを使用することで、壁面の白色とのコントラストを上げ、遠くからでも目立つようなものとした(図2・3)。加えて、明るく温かい色合いであるため、利用者の親しみやすさも増すと考えられる。

事務室・作業室の表示板にはお茶大の学生専用大学ロゴを使用した。

3. プロジェクト実施結果

提案した愛称と部屋名表示板が実際に新学生会館に使用されることとなった。製作した部屋名表示板(図4)は、2月までに新学生会館内に取り付けられ、竣工を迎える予定である。



(左から) 図1：デザイン変遷(左上→右上→左下→右下)、図2：背景色選定の様子、
図3：廊下に掲示して見え方を確認している様子、図4：完成品。